

会議名	第1回次期多摩市交通マスタープラン検討部会					
開催日時	令和7年7月22日(火)午前10時00分~午前11時30分					
開催場所	多摩市役所 第二庁舎会議室					
会議次第						
議事	(1) 多摩市地域公共交通の課題等について (2) 多摩市ミニバス再編について					
出欠席(敬称略)						
(1) 出席委員・6名						
No.	職名	氏名	協議会構成委員			
1	部会長	吉川 徹	東京都立大学 都市環境科学研究科建築学域教授			
2	委員	橋山 英人	神奈川中央交通株式会社 運輸計画部改革担当課長			
3	委員	三浦 裕介	京王電鉄バス株式会社 運輸営業部乗合事業担当課長			
4	委員	鈴木 健一	飛鳥交通ニュータウン株式会社 東京・神奈川地区担当 営業部長			
5	委員	山崎 龍男	小田急交通南多摩株式会社 本社営業所取締役所長			
6	委員	小柳 一成	多摩市都市整備部長			
(2) 欠席委員・1名						
(3) 傍聴者・1名						
(4) 事務局・3名 (多摩市都市整備部交通対策担当課長・道路交通課交通係) 2名 (株式会社ケー・シー・エス)						

## 会議要点録

### 1 開会

事務局が配布資料の確認を行った。

### 2 会長挨拶

会長が開会の挨拶を行った。

事務局が資料の構成に関しての説明を行った。

### 3 資料説明

株式会社ケー・シー・エスより、資料の説明があった。

- ・資料1・・・名簿
- ・資料2・・・席次表
- ・資料3・・・課題方向性（案）
- ・資料4・・・次期交通マスターplan
- ・資料5・・・ミニバスの再編案

### 4 議事

#### (1) 多摩市地域公共交通の課題等について

○株式会社ケー・シー・エス

- ・目指す将来像の実現に向けた課題について説明した。

○吉川部会長

- ・タクシー待機場所の確保に関して、非常に有益であると思うが、駅から住宅団地への片道利用が多い中で、住宅地内に待機場所を確保するリターンがあるのかを疑問に感じる。

タクシー待機場所が頻繁に変わると混乱が生じないように、決められた位置から動かなくて済むようなスペースの確保をしていただけないとありがたい。

#### 質疑応答

○小柳委員

- ・将来像に関して伺いたい。

計画では将来的に快適に移動している姿を将来像と認識していたが、資料3においては計画や支援等の取り組みが将来像にされている。

○株式会社ケー・シー・エスからの回答

- ・ご指摘のあった箇所については、目指す交通ネットワークの基本的な考え方を図示したものである。ご指摘のとおり、本計画によって市民の生活や街がどのように変化していくのかについては、現時点では十分に示されていない。どのような生活ができるようになるのか等を明記するよう修正する。

#### 施策事業のたたきについて

○株式会社ケー・シー・エス

- ・施策事業に関しての説明を行った。

#### 質疑なし

#### ミニバスの再編施策について

○株式会社ケー・シー・エス

- ・ミニバスの再編施策に関しての説明を行った。

質疑なし

## (2) 多摩市ミニバス再編について

○事務局

- ・ミニバス再編に関しての説明があった。

質疑応答

○三浦委員

- ・乗務員数の課題に関しては、依然として難しい状況が続いている。

当社では、過去3年半の間に全体の1割弱である約150名の人員が減少しており、それに伴って業務量も増加している。

この為、路線バスの便数を減らさなければならない状況にある。また、法令改正や残業時間の規制により、乗務員にも過度な負担をかけることはできず、業務量を適正に保つ配慮をしている。

こうした状況の中で、コミュニティバスを除く自社の路線バスについては、過去2年から3年で運行の効率化を進めており、便数を約1割程度削減している。この状況を踏まえると、コミュニティバスのみを維持し続けることは非常に困難である。コミュニティバスは元々、路線バスでは採算が取れず大型のバスの運行が難しい地域など、ニッチな需要に対応するために導入されたものであり、収支が成り立たないのが実情である。

そのため、自治体からの支援を受けて運行しているが、こうした路線のみを維持し、広く需要のある路線バスの運行を縮小し続けることは合理的でないので、利用実態に即した形で、無理のない範囲で再編を進めていきたいと考えている。

○事務局からの回答

- ・非常に厳しい状況ではあるが、市としても可能な範囲で運行を継続したいとの要望を行ってきた。

当初は南北線の廃止案が示されていたが、現在は車両台数を5台から4台へと減らす方向で調整を進めている状況である。

厳しい状況は今後も続くと見込まれることから、先に述べたように現時点で路線を分断しておくことで将来的な再編に柔軟に対応できるようにする意図がある。

利用者には多くの影響や不便が生じることが予想されるため、丁寧な説明を行っていく必要がある。その際には、京王バスにも協力を願う場面が出てくる可能性があるため、引き続き連携を図っていきたい。

○橋山委員

- ・こちらとしては休憩所を用意するのが難しい状況だが、快適な休憩所とは具体的にどういったものなのか。

○事務局からの回答

- ・整備にあたっては多くの課題があるが、特にバスロータリーにおけるトイレ環境については改善の余地がある。

現在、ロータリー内のトイレは快適に使用できる環境とは言い難いが、乗務員は毎日利用せざるを得ない状況にある。更には制服着用での利用となるため、精神的にも十分な休息が取れていない。

そのため、場合によっては休憩のために車庫へ戻る運行形態をとっているケースも見受けられる。駅前には十分な用地やスペースがない状況ではあるが、今後の駅前再編の中で、こうした課題についても検討していく必要がある。特に、近年では女性ドライバーの増加も見受けられるこ

から、トイレ環境の整備は緊急性・重要性の高い課題であると認識している。

○橋山委員

- ・多摩市の中で駅前の再編を考えているのか。

○事務局からの回答

- ・駅前の再編について現在具体的な計画が動いているわけではないが、永山に関しては周辺の事業者が参加する場が設けられ、議論が始まっている状況である。

## **5 その他**

- ・次回の地域公共交通会議を8月29日（金）14時から開催する旨を説明した。
- ・次回の検討部会を10月中旬頃に開催する旨を説明した。
- ・次回の地域公共交通会議にて、9月に実施予定のオープンハウスの結果について報告する意向を示した。
- ・次回の地域公共交通会議にて、今年度策定予定であるマスタープランの素案を協議する意向を示した。また、その際にハブコメの実施時期も報告する旨を説明した。

## **6 閉会**

以上